

南三陸観光 よそ者視点 取り入れる

若手の編集者や起業家が23、24の両日、東日本震災で被災した南三陸町に滞在し、町の情報発信や課題解決に取り組んだ。

防潮堤ライトアップ

ホテルで夜市

ウェブメディア「milieu（ミリュー）」編集長の塩谷舞さん(29)と同町の南三陸ホテル観光が合宿「#BuzzCamp（バズキャンプ）」を企画し、全国各地から約40人が集まった。震災の津波で町内の志津川地区に被災したまま残るビル「高野会館」などを視察し、現地の写真や感想をツイッターで発信した。

ホテル観光では町の観光集客をテーマに、参加者がグループに分かれて話し合った。海岸線の防潮堤を発光ダイオードで照らす「光

若手編集者らアイデア提案



の堤防」や、ホテル観光での「南三陸夜市」の開催など多彩なアイデアが出た。

ホテル観光おかみの阿部憲子さん(56)は「若い人たちの発想は素晴らしい。さまざまなヒントが見つかった」と語った。

塩谷さんは「町の魅力や資源を引き出すにはよそ者の視点も大切。提案されたアイデアには実現の可能性を感じた」と話した。

開催は昨年に続いて2回目。参加者が町民やホテル観光の従業員を対象に、インターネットを使った宣伝の講習会も開いた。町の観光集客について話し合う参加者

2018年6月30日(土)【河北新報】